

## 国際協力特別賞

今私たちにできることーシリアの戦う少女ー

兵庫県立加古川東高等学校 2年

中村 美月

今日は8月15日。72年前のこの日以来、日本での「戦争」は起こっていない。日本中が戦火に包まれたあの頃から72年もの月日が経ち、2017年の今日、私はエアコンの効いた部屋でのんびりとアイスを食べながら携帯電話の液晶を眺めていた。こんなのきな生活を送っている自分には、テレビのニュースが伝えている「72年前の太平洋戦争で…」とか、「今も世界中の国々では戦争や紛争が続いており…」や、「核兵器が…」なんて言葉に対しても、正直全く実感が湧かないのだ。

しかし、なんとなく見つけた、一つのツイッターのアカウントによって、私の意識は大きく変わった。バナ・アルアベドという少女をご存知だろうか。今なお空爆が続くシリアに住むわずか8歳の少女である。その少女はツイッターを通じて、8歳の純粋な目線でのシリアの現状、戦争の残酷さ、世界の平和への願いを叫んでいる。私は夢中になってこの少女の今までのツイートを自分なりに訳し、考えた。とても考えさせられる内容ばかりだった。自分よりも9歳も年下の少女が、自分の命がいつねらわれてもおかしくない中で、「殺人者、恥を知れ。恥を知れ。恥を知れ…」おびえているどころか立ち向かっているのだ。私は衝撃を受けると同時に、今の私はこのままではいけないと強く思った。普段から身近にあって利用しているツイッターという場所で、バナさんのことを知ったから、私はこう思えたのだろう。

バナさんの言葉の中で一番私の心に深く刻まれた言葉がある。原文のままだと「**Love is greater than hate.**」日本語にすると「愛は憎しみより大きい。」となる。シンプルな言葉だが、空爆を受け、生と死の境で戦っている彼女が心から平和を願っての言葉だろう、と感じた。

そこで、今の自分にはいったい何ができるだろうかと考えてみた。何の罪もない8歳の少女が平和を叫ぶ必要のない世界になるにはどうすればいいのか。とても小さなことからだが、ツイッターにはリツイートという機能がある。私がバナさんの投稿をリツイートすることによって、私の友達の目にとまり、その友達は数時間前の私と同じように驚き、平和について考えるきっかけとなってくれるだろう。トラブルが起りやすいと言われがちなツイッターも、こんなことに使えらるととても良いと思う。

もう一つ、世界の平和のために私たちにできることがある。「家に帰って家族を愛してあげてください。」聞いたことがある人も多いかもしれないが、これはマザー・テレサが世界平和のためにできることをたずねられたときに答えた言葉である。私はこの言葉を聞いて、世界の偉い人が動くことよりも世界中の人々が家族を愛することが平和への近道になるだろうなと思った。

戦争のない国に住むただの高校生である私にできることはとても少ないかもしれない。けれど、私もバナ・アルアベドさんやマザー・テレサと同じように世界の平和を望む人間の一人である。私の住む国から戦争がなくなったこの日に、この国、いつかは世界のすべての国々から戦争がなくなることを願う。